

令和6年度事業報告

1 法人の概要

1) 沿革

昭和15年12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年 4月 1日	布施高等女学校開校
22年 4月 1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年 4月 1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年 2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年 3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年 4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年 4月 1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年 1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年 1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年 1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年 4月 1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年 4月 1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年 2月 9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年 4月 1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年 4月 1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年 3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年 7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年 3月 1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年 3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年 5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年 4月 1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年 1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年 4月 1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年 4月 1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更

			家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日		家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日		東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日		健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更
			健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日		健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日		東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日		東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更
30年	4月1日		東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設
令和3年	4月1日		東大阪大学こども学部アジアこども学科を国際教養こども学科に名称変更

2) 設置する学校・学部・学科（令和6年度）

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科
国際教養こども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科
実践保育学科
介護福祉学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科（全日制課程）
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科（全日制課程）
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

3) 当該学校・学部・学科の学生数（令和6年5月1日現在）

学 校 名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	284
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	81
	実践保育学科	61
	介護福祉学科	136
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	727
東大阪大学柏原高等学校	普通科	499
東大阪大学附属幼稚園		268
合計		2,056

4) 役員の概要（令和7年4月1日現在）

(1) 役員 理事 7人、監事 2人（任期：令和7年7月3日【7-1-1 除く】）

寄附行為	役職名	氏名
7-1-2	理事長	村上 靖平
7-1-2	理 事	栗岡二三子
7-1-3	理 事	筒井 宣興
7-1-2	理 事	金治 延幸
7-1-3	理 事	別所諭貴夫
7-1-3	理 事	南方 孝一
7-1-1	理 事	中村 光男
8	監 事	中道 均
8	監 事	室井 博子

(2) 評議員 15人（任期：令和7年7月3日）

寄附行為	氏名	寄附行為	氏名
21-1-2	栗岡二三子	21-1-1	山田ゆかり
21-1-1	村上 靖平	21-1-1	新 浩幸
21-1-3	妻野 京子	21-1-1	小林 康行
21-1-3	吉岡真知子	21-1-1	南方 孝一
21-1-3	別所諭貴夫	21-1-3	宮里 円香
21-1-3	西田 眞男	21-1-1	中村 光男
21-1-3	金治 延幸	21-1-1	永岡 由美
21-1-3	三浦 常治		

5) 教職員の概要（令和6年5月1日現在）

	教 員		職 員		合計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	13	3	16
東大阪大学	21	24	14	13	72
東大阪大学短期大学部	30	32	15	2	79
東大阪大学敬愛高等学校	46	16	5	7	74
東大阪大学柏原高等学校	48	8	11	10	77
東大阪大学附属幼稚園	20	4	5	3	32
合 計	165	84	63	38	350

2 財務の概要

1) 事業活動収支計算書（令和4年度から令和6年度）

（単位：千円）

（教育活動収入の部）	令和6年度	令和5年度	令和4年度
学生生徒等納付金	1,363,499	1,372,140	1,402,731
手数料	25,228	27,669	27,922
寄付金	15,713	15,543	22,061
経常費等補助金	855,221	800,860	813,968
付随事業収入	113,867	98,401	118,739
雑収入	99,559	72,253	49,758
教育活動収入計	2,473,088	2,386,866	2,435,180
（教育活動支出の部）			
人件費	1,441,386	1,499,017	1,546,107
教育研究経費	908,044	914,229	948,685
管理経費	344,947	414,394	431,251
徴収不能額等	1,621	7,200	5,726
教育活動支出計	2,695,997	2,834,840	2,931,770
教育活動収支差額	△222,909	△447,974	△496,590
（教育活動外収入）			
受取利息・配当金	27,399	17,878	49,917
その他の教育活動外収入	-	-	-
教育活動外収入計	27,399	17,878	49,917
（教育活動外支出）			
借入金利息	22,555	21,825	21,121
その他の教育活動外支出	-	-	-
教育活動外支出計	22,555	21,825	21,121
教育活動外収支差額	4,843	△3,945	28,797
経常収支差額	△218,066	△451,920	△467,794
（特別収入）			
資産売却差額	6,850	20	987
その他の特別収入	3,666	61,026	3,325
特別収入計	10,516	61,046	4,313
（特別支出）			
資産処分差額	16,084	221	732
その他の特別支出	557	2,744	703

特別支出計	16,641	2,965	1,436
特別収支差額	△6,125	58,081	2,877
基本金組入前当年度収支差額	△224,191	△393,840	△464,917
基本金組入額合計	△162,714	△364,560	△174,460
当年度収支差額	△386,906	△758,400	△639,377
前年度繰越収支差額	△6,547,481	△5,789,081	△5,149,704
基本金取崩額	-	-	-
翌年度繰越収支差額	△6,934,387	△6,547,481	△5,789,081
事業活動収入計	2,511,002	2,465,790	2,489,409
事業活動支出計	2,735,193	2,859,630	2,954,326

2) 貸借対照表（令和4年度から令和6年度）

（単位：千円）

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
固定資産	11,607,370	12,224,520	12,448,173
流動資産	567,214	339,033	649,742
資産の部合計	12,174,584	12,563,553	13,097,916
固定負債	1,631,812	1,784,285	1,929,623
流動負債	685,832	698,137	693,322
負債の部合計	2,317,644	2,482,422	2,622,944
基本金の部合計	16,791,327	16,628,613	16,264,052
繰越収支差額の部合計	△6,934,387	△6,547,481	△5,789,081
負債及び純資産の部合計	12,174,584	12,563,553	13,097,916

3) 財務比率（令和4年度から令和6年度）

（単位：％）

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
人件費比率	57.6	62.3	62.2
人件費依存率	105.7	109.2	110.2
教育研究経費比率	36.3	38.0	38.2
事業活動収支差額比率	△8.9	△16.0	△18.7

2 令和6年度事業計画における進捗状況等

I 教育内容の充実

イ) 教科指導 (ICT 教育の充実)

- ・年度当初に、各教科より「教科目標」を提出、年間を通して目標達成に向けての取り組みにより「各教科でつけさせたい力」が明確になり統一した指導につながった。
- ・タブレット端末、プロジェクターは Classi・MetaMoji 等のアプリを授業で活用。また、パフォーマンス課題、小テストでも活用し効果が出ている。
- ・新学習指導要領における「観点別学習状況の評価」

※本校が目指す生徒の成長では、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む力」の有効指導が重要となり、各教科で時間をかけて取り組み、その成果が表れてきている。

※生徒の主体的な学びに対する意識が芽生えてきている、また、パフォーマンス課題等を通じて学んだことを、どのように活用するかが理解できてきている。

※調べ学習や発表を通じて協力して課題に向かう姿勢が見られるようになっている。

※各教科での単元ごとの小テスト実施により、学習に対する姿勢が向上している。

※中間考査を無くしたことは、授業時数の確保に有効であった。

- ・毎週の「小テスト」と学期ごとの「基礎力診断テスト」について

※朝、週3回実施している小テストで合格できなかった生徒への再テストを実施したことで、基礎力診断テスト成績も徐々に上がり成果が出てきている。今後も継続する。

- ・これまでの「基礎力診断テスト」の成果を考え、本年度からは3年生は「実力診断テスト」を実施した。実施により進学への意識付けが強くなった。

ハ) 学級経営 (担任の取組)

- ・タブレット端末 (Classi) を利用し、生徒個人の振り返りを学級単位で実施することで、担任と生徒との情報共有ができた。
 - ・日々の学習記録は効果的ではあったが、本年度から、より効果が期待できるポートフォリオに変更した。
- また、学年からの行事などの振り返りについても有効に活用され、結果、生徒の記入率も上がり、将来の進路指導にも役立つことが見込める。

ニ) 保健室来室・生徒相談件数

- ・保健室来室

※来室者数は昨年度よりも減少傾向。気持ちの不調が身体症状に現れる生徒の利用は多い。

※来室者の多いクラスは同じ生徒が頻繁に利用するケースが多くあり、相談で来室した生徒も多く、困っていることや気持ちの整理を一緒に行い、必要であれば対策をまずは自分で考えられるよう助言し指導した。多かった相談内容は人間関係トラブルからの教室に入りづらい、周囲の反応に対し敏感になる生徒がここ数年で増加している

※今年度はマイコプラズマ肺炎、インフルエンザ、コロナ感染症の流行時には、発熱・風邪症状で来室者・早退対応が増加した。症状がある際には無理して登校しないこと、マスクや手洗い等の予防に努めるよう指導した。

※例年に続き、授業中の来室、授業開始直後や数分後に、緊急性の低い理由での来室があった。生徒自身が授業中の来室の必要性について適切な判断が出来るよう、指導を継続する。

・生徒相談

※相談件数：28 ケース（昨年度より 4 件増）

1 年 12 件、2 年 9 件（新規：7 件、継続 2 件）、3 年 7 件（新規：4 件、継続 3 件）

※相談内容は、学校生活への不安、自傷行為、家庭環境、心因性の体調不良、自身の特性についてなどの悩みが中心。

※対応については、管理職、学年主任、学級担任、S C（スクールカウンセラー）、保健室と連携し、相談し 対応。

※SC に週 1 回、生徒・保護者面談・教員面談、ケース会議への参加を依頼し実施し有効であった。

※SC 面談の申し込みについて、クラッシーにて生徒・保護者へ周知し、保護者からの予約件数が昨年度より増加した。継続して周知し早期に対応できるように働きかけを行う。

※新入生については S C 面談が必要になる可能性のある生徒のリストを作成し学年へ共有した。来年度もリストをもとに教員と情報共有できるよう継続する。

※情報共有と連携、チーム対応の整備を目標に、本人への理解、具体的な対応や、支援の方針について教員と更に検討し取り組む。

※生徒の居場所作りを目的にフリースペースの開放を実施。

※カウンセリング協会から 2 年間（週 1 日・1 名）の S C も加わるので協力し対応にあたる。

Ⅱ 各コースの充実

イ) 総合進学コース

○選択科目「敬愛講座」

・昨年に引き続き、敬愛講座 A「アカデミック探究」「スポーツ探究」敬愛講座 B「トライアル探究」「キャリア探究」で実施。それぞれの探究講座の特徴を生かし、生徒達の探究への意識も向上した。

○コース行事

- ・「ボランティア活動」として、「海ごみゼロウィーク」海洋ごみ削減に取り組み、地球環境の未来への課題を発見し、自らの行動を考える良い機会となった。
- ・今年度より SDGs の取り組み（ペットボトルキャップ集め）を全学年総合進学コースで取り組むことができた。また、それぞれの学年でどのような取り組みをするのかの骨組みができたので、今後も継続して取り組んでいく。
- ・敬愛祭では本校のマスコットの「ももいち」をテーマに各クラスでフォトスポットとスタンプラリーを企画した。当日は想定以上に参加があり生徒が達成感を得ることができた。

ロ) こども教育コース

○こども研究科目

- ・昨年に引き続き保育技術検定を行っている。今年度までは「造形表現技術」と「言語表現技術」の2級取得を目指して授業を実施した。来年度は「音楽・リズム表現技術」と「家庭看護技術」を含め、全項目で2級取得を目指した指導をしていく。
- ・3年生のレクリエーション実習の授業では、今年度は11人（昨年5名）の資格申請があった。

○高大連携授業について

- ・例年通り実施。短期大学部の先生方の協力を経て進路につながる授業になった。

○コース行事

- ・幼稚園実習

※非常に充実した実習が実施できた。また、生徒達自身も有意義な時間を過ごせていることが実習レポートからも覗えた。

- ・デイキャンプ（1年生）

※「ブルーメの丘」のアスレチックを体験した。目的である『ブルーメの丘のアトラクション「アルプスジム」を通して、楽しみだけでなく、安全管理やリスクマネジメントを学習する』を達成できた。

- ・キャンプ実習（2・3年生）

※全体を通して、3年生が積極的に2年生を導き、実習を盛り上げた。またレクリエーションやマイムマイムを通して学年を超えた友好関係を築くことが出来た。

- ・敬愛祭

※こどもランドの来場者は50組ほどであった。昨年度の課題であった周知、集客については、生徒たちがポスターを作成し、直接近隣の園に届けたことで改善できた。

※今年度の1年生の展示である顔出しパネルや入場ゲートは大変好評であった。今年は文化祭への授業回数を確保したことが要員だと考えられる。3年生の劇も好評で準グランプリを獲得することが出来た。

- ・ピアノレッスンについて

※今年度から音楽棟の使用ができなくなり、大学やサポート室でのレッスンとなった。そのことによる生徒からの苦情もなく、今後も同様に活動する。

※放課後のサポート室をピアノの練習室として活用し、技術の向上を目指す。

ハ) 調理製菓コース

○高大連携授業について

- ・今年度初めての取り組みとして選択実習を追加した。「調理・製菓・製パンから好きな科目を選択し、実習する」という内容で、好きな科目が選択できることでより充実した時間となった。
- ・販売実習では、科目ごとの取り組みを強化し、生徒主体の実習としていきたい。

○コース行事

- ・実践食育実習

※今年度は3学年合同で実施した。内容は滋賀にて飯盒炊飯とカヤック体験を実施し、自主的な行動がみられ有意義な実習となった。

- ・敬愛Cafe

※今年度は校舎内調理室にてお弁当販売とドリンク・スイーツの販売を実施。

※「飲み物を作る→提供する」の流れがスムーズで良かったが、調理室のテーブルが9個しかないため回転率は悪くなった。次年度も調理室で実施する場合は、テイクアウトを充実させていきたい。

・感謝の食事会

※従来の形式で実施。

※教職員用感謝の食事会では多くの教職員から協力が得られ、生徒達の達成感向上につながった。料理のクオリティを上げていくことが課題である。お弁当に詰めて職員室で試食ができる形を今後も取っていききたい。

※保護者対象の感謝の食事会では100名以上の保護者の参加があり、3年間の成果を発揮することができた。

※3年間の成果を見せる行事なので、次年度以降もクオリティを上げながら実施する。

ニ) ファッション創造コース

○産学連携プロジェクト

・東大阪大学こども学部の学生とも合同で取り組んだ。大学教授の講義にも参加し、難民とその生活についてなど、活動の知識をより深めることができた。

・近隣の幼稚園、保育園、小学校に子供服の回収を依頼し、活動を拡大することができた。園児のみなさんに活動の紹介と、ファッション創造コースを知ってもらう取り組みとして毛糸のミサンガ作りを一緒に行った。近隣の小学校では全校朝礼にて子供服回収の協力を得た。

・校内での回収を大きく告知できなかったことが反省点としてある。今後は不要になった服の回収と、服のリメイクを授業に取り入れて行うことも検討する。

○コース行事

・2F1 コース研修旅行

※事前学習としてジーンズについて学んだ上で研修旅行に臨むことができた。来年度以降は見学だけで終わるのではなく、企業との連携やジーンズ生地を使用した作品の制作など新たな取り組みを計画して実施する。

※児島ジーンズストリートの店舗が、平日ほぼ閉まっているという問題点は昨年度から解消されなかった。来年度は解決策として、土曜日の行程にジーンズストリート散策を計画しているため、開店している店舗を見学でき、さらに有効な実習となる。

・校外学習（1年生）：大阪文化服装学院・衣装買付（梅田）

※昨年と同様「ファッションデザインセミナー ～シルエットをテーマにデザイン発想する～」という体験授業を受け、専門学生が学習する内容であるデザイン発想について学ぶことができた。専門学校生の作品を間近に見ることもでき、作品のクオリティに圧倒された。

※梅田での敬愛祭の衣装買い付けでは、限られた時間内で店舗を回り、スタイリングに必要なものを購入することができた。

・校外学習（2年生）：大阪夕陽丘学園短期大学体験授業・阿倍野キューズモール衣装買付

- ※ファッション、ビューティ、ブライダル の 3 分野に分かれて体験授業を受講した。
短大の施設や授業の内容について知ることができた。
- ※専門学校を進路として考える生徒が多い中、実際に短大に足を運び授業を受けることで、大学・短大への進路というものも意識付けすることができた。
- ※キューズモールでは、敬愛祭の「教員スタイリング」用の衣装の買い付けを行った。事前にモデルになる教員の意見を聞き、スタイリングに合うものを購入することができた。
- ・校外学習（3 年生）：太陽の塔、EXPO' 70 パビリオン見学・ららぽーとショッピングサーチ
 - ※EXPO' 70 パビリオンでは 1970 年大阪万博の衣装展が開催されており、よいタイミングで学習できた。
 - ※ショッピングサーチでは、各店舗の店員に「リサーチを行ってよいか」の確認を取ってからリサーチを行い多くの情報が得られた。
- ・敬愛祭
 - ※KI グランプリでは、3 学年がそれぞれファッションショーを実施した。昨年度より良いショーだったとの評価が多くあり、生徒のクオリティ向上を実現することができた。
 - ※1 年生のショーでは、昨年度までは「服飾造形ソイング」で自作したスカートとパンツを使用していたが、今年度から手作りの衣服は用いないスタイリングショーを実施した。その結果、より自由度の高いスタイリングができ、チームの個性を表現することができた
 - ※2 年生は、生徒の希望で教員スタイリングショーを実施した。自分以外にヘアメイク、スタイリングを施す経験ができ生徒の成長につながった。また普段とは違う教員の一面を見せられ、ショーを盛り上げることができた。
 - ※3 年生は、一人一人がデザインしたドレスを制作し、ショーを行った。個性豊かなドレスが完成し、卒業制作にふさわしい作品、ショーになった。出来映えについても好意的なコメントが多くあった。
 - ※プロのヘアメイクアップアーティストの市場朱実さんを中心としたプロモデル、ダンサー、ヘアメイクの方々が創り上げるランウェイショーでは、希望生徒は裏方としてヘアメイクやバックヤードのサポートを実施し貴重な経験となった。
 - ※敬愛祭 3 日目は、体育館舞台でのファッションショーと、コースの模擬店を出店した。ファッションショーの開始時間前には、衣装を着用した生徒が野外ステージで宣伝を行い、注目を集めていたので集客効果があったと。
 - ※模擬店では、全学年で商品制作、2 年生が模擬店の運営を担当した。1 年生は「KE I A I」タータン生地（女子の夏服スカート生地）を使用したコースター、リボンキーホルダー、巾着、2 年生はフェルトマスコットキーホルダー、3 年生は本校のマスコットである「ももいち」のアクリルキーホルダー、缶バッジ、ステッ

カーを制作した。ガチャガチャ形式で販売したこともあり好評であった。来年度以降も敬愛祭に向けての商品開発や制作をさらなるクオリティアップを目指す。

Ⅲ 生徒会活動の充実

イ) 体育祭について

○今年度でラクタブドームでの体育祭開催は5回目となった。アンケート調査では、保護者・生徒ともにドーム開催を高く評価しており、引き続きこの形式での実施が望ましいと

考えられる。(ただしR7年度はラクタブドーム大規模修繕のため使用不可)

○今年度は、各団の団長・副団長が開会式でパフォーマンスを披露し、会場を盛り上げた。この取り組みは効果的であり、次年度は各団が事前に練習する機会を設けることで、生徒達のモチベーションも上がり、パフォーマンスの質を向上させられる。

ロ) 敬愛祭

○1日目(演芸鑑賞会)

・今年度の演芸鑑賞は、例年の吉本芸人による公演から、専門学校の学生によるアイドルグループのパフォーマンスに変更した。当日のパフォーマンスは想像を超えるもので、大いに会場を盛り上げる結果となった。敬愛生へのアンケート結果でも非常に好評であり、多くの生徒が満足したことがうかがえた。また、吉本芸人の公演と比較して出演コストが抑えられるという大きなメリットも確認できた。来年度以降も、コスト面や生徒の満足度を考慮しながら、より良い演芸鑑賞の企画を検討し実施する。

○2日目(KI グランプリ)

・例年より有志の参加者が減少した。次年度は、予選の告知をより早い時期に行い、より多くの参加者を集めることが課題と考える。また、本選ではダンス系のグループに偏る傾向が見られた。今後は、歌唱・演奏・漫才など多様なジャンルの参加者が増えるような働きかけを強化したい。

・参加グループは、良く練習を積み重ねていることが、そのパフォーマンスからも理解することができ、観覧者からも賞賛された。

○3日目(模擬店・展示)

・模擬店

※時折、小雨が降る天気の中で開催されたが、大きなトラブルもなく、各クラスがルールを守り運営ができた。売り上げは昨年度の村上学園フェスタを上回る結果となった。

・展示

※各コース、各クラブ・同好会が工夫を凝らした力作を展示し、来場者から好評を得た。

・演芸

※今年度は「多くの来場者に演芸を鑑賞してもらおう」という目標を掲げ、生徒会が計画を立案。屋外ステージの開催を取りやめ、代わりに屋外での演芸告知や、体育館への誘導を強化した。その結果、例年よりも体育館への来場者が増加し、特にFコースのファッションショーでは座席がすべて埋まるほどの盛況となった。

※今回の取り組みは一定の成果を上げたが、さらに多くの来場者に演芸を楽しんでもらえるよう、次年度に向けて改善策を検討する。

ハ) 1, 2 年生生徒会行事

○午前中は学年対抗戦と個人競技、午後はクラス対抗の大縄跳びを行った。怪我防止のため競技方法を変更するなど、安全に楽しめるようにした。学年対抗戦では、新種目も取り入れるなどどの競技も大いに盛り上がり、良いイベントになった。

さらに、毎年人気の豚汁を、調理製菓コースの生徒や3年生の教職員、各学年の担任の協力のもと、1・2年生に提供し、生徒や教職員からも大変好評であった。

ニ) クラブ活動について

○今年度も大きな問題なく部活動を運営ができた。

○陸上競技部では、日本記録を達成した生徒や、全国大会で優勝、全国高校駅伝にて入賞するなど例年以上の活躍があった。

○練習場所、用具、鍵の管理、クラブハウスの使用など管理の再確認が必要である。また、クラブハウストイレ清掃について、年度初めに体育部で当番を決めているが機能していないときがある。顧問への呼びかけや巡回を実施するなど対策が必要である。

ホ) その他

・クラブ体験、スポーツ大会、愛の募金活動などの行事も生徒会役員が中心となり実施し、各行事有効であった。

・生徒会選挙は、「成人年齢 18 歳」など選挙への関心を高めるため、3年生は東大阪市から実際の投票箱と記載台を借用し、本物の選挙さながらの投票が行われた。

IV 生徒指導の徹底

イ) 問題行動の指導案件

○今年度、指導案件数は増加となった。特に人間関係のトラブル・SNSの投稿など注意すべき点は多くあるため、来年度も引き続き、日ごろからの声掛けや巡回指導など、規範意識向上につながる取り組みを継続する必要がある。

○今年度は年度当初に「いじめゼロではなく、いじめ見逃しゼロ」を目指した。結果的にここ数年なかったいじめ案件があがった。起こったことは残念だが、見逃しを防げたことは良い点であると考え、今後も「いじめゼロではなく、いじめ見逃しゼロ」を目指し、結果的に「いじめゼロ」に結び付けたい。

ロ) イエローカードによる指導

○ポイント数は、数年減少傾向であったが、今年は増加に転じた。依然として携帯・スマホの割合が最も高く、再度、規範意識を持たせる取り組みを行う必要がある。特にスマホ等の使用に関しては懲戒レベルの問題行動につながる可能性があるため、重点的に取り組みたい。

○頭髮に関しては、一昨年度より頭髮検査、頭髮改善日と生徒指導係全員でチェックする形式に変更しツブロックの規定が変更になり、判断基準が難しくなったが、各学年での差異はなくなった。しかし、流行のヘアスタイルにより、判断の基準が年々難しくなっている。

ハ) 交通（自転車通学）

○今年度も通学マナーについて外部からのクレームがあり、信号無視・並列走行などに関するものがあったが立哨時に外部での指導を継続して行った結果、通学マナーについては改善傾向にある。また、道路交通法の改正により、車やオートバイと同じように反則金を課す、いわゆる「青切符」による取締りが導入されたこともあり、啓発活動に重点を置き指導する。

V 進路保障の徹底

イ) 進路行事

○全学年 5 月短縮授業実施（模擬授業・職業体験）

・初の取り組みであったが、実施日や実施内容等で参加しやすく好評であった。生徒の希望を考慮した内容を検討し、次年度以降も実施する。

○2 年小論文対策

・2 年 2 学期総合的な探究の時間で小論文対策を実施。指導動画付きの教材を選んだが、内容的に難しいと感じる生徒もいたが、次年度以降も教材の検討を続け実施する。

・2 年からの小論文対策は今後の受験対策に必要と考える。総合的な探究の時間の担当者や学年との連携を図っていく必要がある。

○2 年校外進路行事（S コース）

・参加生徒の感想は良好であった。2 回の校外進路行事について、学年との連携を図り、さらに充実する取り組みとする。

ロ) 進学について

○令和 6 年度の進路希望状況及び本校の傾向は、進学約 90%弱、就職 10%弱の傾向にある。進学 90%の内訳は、大学が 45～50%、短大 10%前後、専門学校 25～35%となっている。

受験方法は、総合型選抜（AO 入試）、内部推薦・指定校推薦・公募制推薦等を利用し、多くの生徒が年内入試で進路決定となっている。また、受験先となる大学は、年内入試で定員確保傾向にあるので、次年度以降も年内入試の進路指導を継続する必要がある。

多様な総合型選抜での受験で良い結果を出す生徒も多く、学力はもちろんのこと、面接・プレゼンテーション・自己 PR・小論文など多岐にわたる入試内容のため、今後は、より一層生徒一人ひとりに合わせた指導が必要になる。

進学実績の充実は今後の課題である。特に、特別進学クラス（T）の進学指導充実、関関同立や近大への進学実績を目標に全教員での取り組みが必要である。

ハ) 就職について

○就職希望者は、卒業生全体の 10%弱であったが、家庭の事情等で進路変更しているケースもあり、最終就職内定者は当初の希望者を上回り 10%以上となった。昨年同様に求人数は多く、1000 社を超える求人票と WEB 求人も含め、多くの企業が高校生

の採用に意欲的で、高卒採用は増加傾向にある。ミスマッチを防ぐ上で、職場見学への参加等就職指導の充実が必要である。

- ・就職選考の一人2社制が導入されたが、大阪府全体で2社制を利用した生徒は少ない。生徒の就職指導を考えると、今後も強制はしないが1社受験で進めていきたい
- ・昨年度より、求人票検索システムを導入し、求人票の管理がスムーズになってきており、さらなる活用方法を検討する。

VI 入試広報部の充実

イ) 募集

○中学校訪問

- ・募集担当6名が約40～80校を担当し中学校訪問を実施。今年度は専願・併願ともに受験者数が減少のため、近隣校の重点的訪問はもちろん、その他の訪問も回数を増やす必要がある。他校情報を踏まえて戦略的に募集活動を行っていく。また各担当者が訪問機会を確保できるような取り組みも検討する。
- ・北摂方面に郵送をしたことにより専願生が増加したので、来年度は在校生の報告を含めて訪問していく。
- ・出前授業案内のチラシを独自で作成し、配布した結果、今年度中学校へ訪問した説明会が5件(昨年3件)・出前授業が10件(昨年5件)・高校訪問が1件(昨年1件)と増加。複数コースで依頼が増えた。

○塾訪問

- ・今年度は、塾訪問専属で1名担当。去年に引き続き、コースの説明やチラシの配布などを中心に、年間で500件以上と数多くの塾に訪問。そのうち新規の塾も開拓中であり、引き続き募集活動を継続し、塾からの入学者増を目指す。

ロ) 広報

○SNS・HP

- ・今年度も生徒会役員を中心にInstagramのストーリー配信など多くの投稿を行った。来年度も在校生の様子や学校行事の楽しさを伝えていけるように継続する。
- ・各コースの投稿やリール投稿を増やし、各コースの魅力を伝えることにも力を注いだ。
- ・SNS 中心に活動に協力できる生徒を募集し、生徒目線で作り上げていけるようなものにする。
- ・Google 評価の改善に新たに【ロカオプ】を採用し、改善され、いい評価につながった。

○Keiai レター

- ・4月に全校生徒用のKeiai レターを制作し5月頃の1回目の募集活動の際に、募集係から各中学校へ配布し、好評を得た。来年度も同じように継続していきたい。
- ・在校生の様子を伝えることやポスターができるまでの掲示物としても必要不可欠である。

○私学展

- ・今年度8月10・11日の2日間開催。外部の相談会には6件参加。

学校を知ってもらう機会という意味では、来年度も説明会には積極的に参加していく。

- ・鶴見区、城東区は重点地域であるが、相談件数が少ないという問題点がある。来年度参加した際は、「〇〇区内から自転車で△分・具体的な在校生の人数など」掲示することで、学校の知名度につなげたい。

ハ) イベント

○オープンスクール

- ・OS 中学生の参加者が 247 名増えている(昨 832→今 1079 名)。
- ・参加者のアンケートを QR の読み取りにしたところ、アンケート数は激減したが有益な情報が得られた。

○秋祭り

- ・開催 3 年目で、企業の誘致の数は変わらず。キッチンカーが増えた分、見栄えはよかった。(外部 18 団体・内部 7 団体・中学生サッカー 10 団体・中学生バスケ 8 団体)
- ・集客は、幼稚園の運動会と重なり入り口が複数個所あったため、集客のカウントが難しかったが、若干減少傾向が見られた。来年度から 10 月のお祭りシーズンを避けて、11 月固定にしていきたい。KEIAI 秋まつりが固定できれば、地域イベントの一つになる。目先の将来だけでなく地域のつながりから、幼稚園・小学校を含め、将来的な進路につながるため継続していきたい。
- ・各コースと企業とのコラボを意識した運営をしていくことで、相互にメリットが生まれた。
- ・多くの企業からご好評をいただいている。このイベントをきっかけに多くの企業とつながり、様々な面で活用したい。

○入試説明会・冬休み集中講座

- ・昨年度、説明内容をもう少し具体的にしてほしいという意見があったため今年度は、実際過去問を使って部分的な解き方の説明をする等、プログラムの時間を増やし、細かな内容の説明を行った。結果、好評であった。

VII 留学支援部

イ) ・令和 6 年度在籍数(年度末 101 名)

月		0 年	1 年	2 年	3 年	計
3 月	進級	0	3	6	38	47
4 月	新入	0	19	4	4	27
10 月		29	6	10	0	45
計		29	28	20	42	119
退学		5	7	2	4	18

・令和 7 年度進級・進級見込み (63 名)

月		0 年	1 年	2 年	3 年	計
3 月	進級	0	24	21	18	63

4 月	新入	0	未定	未定	未定	未定
10 月		未定	未定	未定	未定	未定
計			24	21	18	63

○全体

- ・本年度の在籍は 119 名（令和 5 年度 77 名）となり、新型コロナウイルス感染拡大前の在籍人数となった。現地での募集活動、本校への来校・見学など多く実施した。今後、優秀な留学生の増加を目指す。

ロ) 生徒指導

- 本年度は指導数が増加した。次年度は指導数減少のため、生徒指導部からルールの説明を行い、規範意識の向上のために取り組む。

ハ) 進学指導

- 3 年卒業生 38 名中、4 年制大学 30 名、専門学校 2 名、語学学校 1 名、帰国 2 名、未決定者 3 名となっており、有名私立レベルの進学実績を残すことができた。
- 本年度は本校に限らず、日本への留学生が増加しており、競争率が高くなり苦戦した。入試制度をよく理解していない、初動が遅いなどもあり、進学指導も難航した。次年度は進学指導の方法を見直し、関関同立レベルの合格を複数人出すことを目標にした。

ニ) 3 年生校外学習

- ・本年度は敬愛高校、柏原高校の 3 年生合同で校外学習を実施した。（留学生独自の行事がないための実施。）東映太秦映画村では自由散策と京都伝統工芸の清水焼絵付けを体験し、金閣寺では写真を撮りながら自由に散策を行った。日本の文化に触れながら、楽しく観光をすることができた。

ホ) 高校入学前教育 R1 クラス

- 本年度は 29 名を受け入れ、高校入学前教育を実施した。勉強が苦手で集中して取り組むことができない、日本での留学生活に馴染めない、人間関係でトラブルになることも多かった。年齢的にもまだ幼いため、より多くの指導が必要であると感じた。物事を一から教え、日本で留学生生活を送る意義と自らの目標を設定させて、個々の状況に合わせて、指導していく。

保健室来室記録

令和 7 年 2 月 28 日(金)現在

【 クラス別来室者のべ数 】

	1 年										
	S1	S2	S3	S4	C1	C2	E1	E2	F1	R1	合計
4 月	18	1	1	2	3	4	5	4	0		38
5 月	5	10	2	3	5	3	7	9	3		47
6 月	6	7	11	2	0	2	3	11	0		42
7 月	0	1	1	0	0	1	1	2	1		7
8 月	1	2	2	0	1	0	1	3	0		10
9 月	11	6	2	16	0	9	5	3	0		52
10 月	13	6	1	12	8	6	4	6	3		59
11 月	6	4	4	5	3	5	4	4	5	10	50
12 月	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
1 月	5	6	2	2	1	2	7	6	3	0	34
2 月	7	0	2	2	0	7	5	5	0	5	33
合計	73	43	28	44	22	39	43	53	15	15	375

	2 年										
	S1	S2	S3	T1	T2	C1	E1	E2	E3	F1	合計
4 月	6	2	5	1		7	4	1	0	1	27
5 月	4	9	6	6		18	12	8	4	1	68
6 月	5	4	7	0		12	4	4	4	6	46
7 月	1	0	0	0		0	1	0	0	0	2
8 月	0	1	0	1		1	1	0	0	0	4
9 月	2	6	9	2		5	2	5	6	10	47
10 月	3	9	10	1	1	14	3	2	4	3	50
11 月	3	7	4	1	3	10	1	1	1	3	34
12 月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1 月	2	4	6	3	0	11	3	2	1	2	34
2 月	2	0	5	0	0	7	0	0	2	2	18
合計	29	42	52	15	4	85	31	23	22	28	331

	3 年									
	S1	S2	T1	T2	C1	C2	E1	E2	F1	合計

4月	7	1	5	1	4	5	10	7	5	45
5月	5	8	7	2	6	10	5	5	3	51
6月	7	10	3	2	5	7	9	8	0	51
7月	2	0	4	1	7	2	0	2	0	18
8月	0	0	1	0	1	0	2	1	0	5
9月	4	5	0	0	4	7	12	4	2	38
10月	2	8	2	8	11	11	8	10	1	61
11月	10	6	3	0	8	16	7	5	2	57
12月	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
1月	2	7	1	1	0	4	1	1	0	17
2月	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
合計	41	45	27	15	46	62	55	43	13	347

【 月別来室者のべ数 】

	内科					外科			相談
	頭痛	腹痛	吐き気	生理痛		キズ	打撲	捻挫	
4月	38	13	17	3	2	14	8	7	6
5月	58	16	34	8	2	5	6	7	10
6月	66	21	41	4	0	4	3	8	12
7月	6	3	9	1	0	1	1	3	2
8月	7	3	1	1	0	3	2	0	2
9月	46	32	25	6	1	7	3	3	32
10月	47	19	28	11	0	4	11	2	30
11月	48	12	20	9	0	8	10	1	16
12月	2	1	3	0	0	1	0	0	0
1月	19	10	15	5	2	7	4	0	5
2月	11	10	14	3	0	5	1	0	12
合計	348	140	207	51	7	59	49	31	127

3 財務の概要

別添 令和6年度

資金収支計算書

事業活動収支計算書

貸借対照表

財産目録

監査報告書

参照